



橙の里

DAIDAI NO SATO

多賀小学校だより No.4

令和7年7月1日

電話 68-2105

校訓「夢は大きく
はばたけ多賀っ子」

学校教育目標 「考えを伝え合おう みんなのためにやってみよう」

やってみよう

なんとかなる

ありがとう

ありのまま

～野外教室を通して～

6月中旬に5年生の野外教室に同行させていただきました。梅雨入りということもあり2日間とも「雨」の野外教室となりました。桃沢野外活動センター（長泉町）での活動は主に屋内で、クラフトや子ども達が企画運営をするレクリエーションは大盛況でした。「こんぺいとう」という屋根付きの施設で、キャンプファイヤーもすることができました。

野外教室の要である飯盒炊飯は、2日目の昼に行いました。子ども達は、雨の中、炊事場まで薪や食材を運び、いよいよ待望のカレー作りが始まりました。

ところが、肝心な火が思うように起こせないようです。新聞紙や割りばしには着火するものの一時的な「炎」で終焉しているようでした。薪の並べ方やくべ方、うちわの仰ぎ方に問題があるようです。お米やカレーの鍋の準備は完了しています。あとは安定した「火」です。子ども達の焦る様子が徐々に伝わってきました。どの班も仲間と協力して火を起こすために試行錯誤をする姿が見られました。火が起きないとカレーライスを食べられないから当然です。

そんな中、順調に火起こしができ、ご飯やカレーの完成を見守っている班が数班ありました。よく見ると薪のくべ方やうちわの仰ぎ方も上手にできていました。そして、火が起きずに困っていた周りの班の友達にも火起こしのコツを教えていました。まさしく「協力の火」が実践されていました。傍らで見ていて心温まる光景でした。

気が付けば、どこのかまどからも煙が立ち上がっていました。時間差はありましたが、すべての班でカレーライスを完成することができ、最高の笑顔で食していました。

野外教室の飯盒炊飯では「火起こし」が簡単のようで難しく子どもにとって「壁」となることがあります。そんな状況下でも、5年生のみなさんは仲間と協力し助け合うことができていました。野外教室を通して、多賀っ子の素晴らしい一面を見ることができ嬉しく思いました。

【校長 杉山 宏次】

＜6/24 第1回「民生児童委員と小・中学校との懇談会」を行いました＞

地域の子どもの健やかな成長と、その家族を支える民生児童委員さん、熱海市教育委員会、多賀小と多賀中の校長・教頭が多賀小学校に集まり懇談会を行いました。今回は多賀小の授業を参観していただきました。小中学校両校の学校紹介や地区ごとの分散会を行い、地域での子どもたちの様子について話し合いました。次のようなご意見がありましたのでお知らせします。御意見を今後の教育活動に生かしていきたいと思います。

【多賀小の授業参観後】

- ◇ 元気でみんな生き生きと授業を受けている様子が見られた。地域で会った時も、とても元気な挨拶をしてくれて気持ちがいい。
- ◇ うみえーるの足湯の手伝いに毎回来てくれ、ボランティアをしてくれる感心する小学生がいる。とても助かっている。

＜ベルマークの回収をしています＞

ご家庭で購入した商品についているベルマークをPTAで集めています。集まりましたら、お子さんとおして学校にお持ちください。毎月10日のRSTの日のデジタルから離れた時間を使って、ベルマーク探しをしてみたいはいかがでしょうか。各クラスにある赤い回収箱で回収しています。

